

2016年6月14日

「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック（第1版）」について

千葉大学 アカデミック・リンク・センター

「教育・学修支援の専門性」の必要性

現在、日本の大学教育は、学生の能動的学習の推進、学習時間の増加などを通じた「大学教育の質的転換」の必要性が指摘されており（中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（平成24年8月））、各大学には、その具体的な取り組みが求められている。各大学は、グローバル化する社会の中で活躍することができる卒業生を送り出す責任を果たし、自らの大学の社会的信頼を維持向上させるために、学生の学修成果を高めることに取り組んでいる。

このような大学政策や大学教育改革の実践の現場において求められている質的向上を実現するためには、教育と学修の両側面から、それを支援する者が必要である。しかし、これまでの日本の大学教育では、教育を担当する教員と組織運営を担当する職員の役割が区分され、教育・学修を支援する役割は必ずしも重要視されてこなかった。つまり、現在、日本の大学教育では、これまで日本の大学教育のなかで等閑視されてきた、教育・学修支援をどのように組織的に構築するかが課題となっているのである。

幅広い教養教育と高度な専門教育を扱う大学において、このような観点から、教育・学修を支援することは、大学教育全般についての理解、学生の学修や成長についての理解などの専門的知識を持たなければ担うことはできない。しかし、大学教育における教育・学修支援の専門性として必要な資質・能力は、必ずしも具体的に明らかではない。このことから千葉大学アカデミック・リンク・センターは、文部科学大臣に認定を受けた教育関係共同利用拠点として、その専門性の内容と到達目標を具体的に示すために、2015年10月から2016年5月にかけて、「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック（第一次案）」の作成に取り組んだ。そして、第一次案に対する外部有識者等の意見を踏まえ、「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック（第1版）」を作成した。

「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」の目的

この「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」は、大学において教育・学修を支援するために必要となる能力項目とその到達目標を示したものである。

大学での教育・学修支援を進めるために必要となる、①高等教育についての全般的理解、②各専門領域の特性を含めた大学教育の構造的理解、③学生・学修の理解・実践的方法論、④学生・学修支援の各領域の専門的知識・技能を体系的に示したものである。そして、大

学で教育研究されている各学問領域の全体の体系・内容・構造を理解したうえで、教育課程運営・開発などの教育プログラム改善、新しい教育方法の導入・教材開発などの教育支援、学生の学修への助言や履修指導を含むキャリア形成の支援を行うとともに、教職協働のもとで担当業務を遂行し、学修・学生支援を効果的に実施するための能力を示している。

「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」の作成プロセス

この「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」・「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」は、次のような 3 つの調査・分析を踏まえた作成プロセスを経て策定した。3 つの調査とは、(1) 文献の系統的抽出・分析、(2) 現職大学職員を対象とするインタビュー調査、(3) 現職大学職員を対象とするアンケート調査、である。

(1) 文献の系統的抽出・分析では、「CiNii Articles」「国会図書館サーチ」「JAIRO」の 3 つのデータベースを使用し、14 の検索ワードから検出された書籍・論文の文献を抽出した。その結果、939 件の文献による第一次文献リストを作成し、4 名の分析者による重要度の精査を行い、292 件の文献による第二次文献リストを作成した。この上で一部重要文献の追加を行い、最終的には 298 件の文献を対象に分析作業を行い、384 件の能力を抽出した。これら能力を 3 名の分析者で KJ 法を用い分類を行い 35 項目の中項目を整理し、8 項目のドメイン項目（領域）を設定した。

(2) 現職大学職員を対象とするインタビュー調査では、6 名の分析者が 2015 年 11 月から 2016 年 2 月にかけて、国私立大学の現職職員 29 名を対象に、1 件 1 時間程度を目安とする半構造化インタビューを行った。調査は対象者の同意を得たうえで録音し、逐語録を作成したうえで、各記録内容から具体的な能力項目を抽出した。能力項目の抽出は 1 記録に対し、調査者のうち 2 名が分析者として独立して抽出作業を行い、質的分析としての妥当性を確保したうえで分析を行った。29 名のインタビューデータは、発言の意味のかたまりごとに、総数 7710 件のパラグラフに区分され、そのうちコード化可能な能力項目の言及がみられたパラグラフは 863 件であった。能力項目の抽出は、対象パラグラフから 1 次ラベルを付与し、その結果をもとに全体調整のうえで抽象化した 2 次ラベルを付与する 2 段階で行い、2 次ラベルをもとに統一カテゴリを整理する 3 段階の分析方法を採用した。2 次ラベルから抽出された能力項目の総数は、1236 件であった。この 1236 件の能力項目を整理し、60 件の能力項目（中項目）を抽出し、更に整理を行い、19 項目のドメイン項目（領域）を設定した。

(3) 現職大学職員を対象とするアンケート調査では、文献の系統的抽出・分析で抽出された 8 項目のドメイン項目と 35 項目の中項目、現職大学職員を対象とするインタビュー調査により抽出された 18 項目のドメイン項目と 58 項目の中項目に基づいて、両者の重複等を整理し、47 項目を設定したうえで、それを大学職員としての仕事に対する行動特性を尋ねる設問とした。アンケート調査は、国公立 10 大学の研究協力のもと、各大学の事務局に調査対象者への案内を依頼する形式で匿名 Web 調査方式、2016 年 3 月に実施し、712

件の回答が得られた。調査結果について、分析対象として設定可能と判定した 43 項目について探索的因子分析を行い、最終的に 5 因子 30 項目を採用することとした。

(4) これらの 3 つの調査結果を整理することを通じて、7 つの領域、25 の項目からなる「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック (第一次案)」を策定した。7 領域 25 項目の設定は、アンケート調査から示された 5 因子 30 項目を基本としつつ、文献調査とインタビュー調査の結果を勘案し、領域として包括的すぎることから内容を区分することが妥当と判断した 2 因子を整理することで設定した。これらを「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目 (第1版)」として設定し、7 つの領域のうち、基盤的スキルを除く、6 つの内容について、その能力の内容を具体的に 4 段階で記述することで「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック (第一次案)」を作成した。さらに、「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」の具体性を示すために、各項目が含む要素として「行動特性」を 177 の内容として示した。

(5) 「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック (第一次案)」に対して、次のような意見聴取、改善の取組を行った。まず、5 月 13 日に開催された、教育関係共同利用拠点の運営と教育・学修支援専門職養成部門の活動に関する重要事項を審議するアカデミック・リンク・センター教育・学修支援専門職養成部門運営委員会において、高等教育論や大学職員論、教育行政などに高い学識を有する外部有識者からの意見聴取を行った。それによって、ルーブリックの基準の示し方、記述の仕方など改善箇所の指摘を得た。さらに、6 月 11 日に行われた大学教育学会第 38 回大会における「これからの大学における教育・学修支援の専門性」のラウンドテーブルのなかで、この「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック (第一次案)」を研究成果として紹介するとともに、学会参加者が教育・学修支援に必要と考える資質・能力を検討する機会を得た。53 名の大学教職員から、186 項目の資質・能力の提案があった。これらの提案内容を精査し、必要事情を付け加えることとした (その結果、「行動特性」が 180 の内容となった)。このような幅広い意見聴取をもとに、「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック (第1版)」として公開版を作成した。

「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック (第1版)」の位置づけ

この「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック (第1版)」は、今後、履修証明プログラムの作成を進めていくための目標を示したものである。適宜見直しを含め、改善を図ることを予定しており、内容の在り方等、お気づきのところがあれば、下記にご連絡いただくと幸いです。

連絡先

千葉大学 アカデミック・リンク・センター

E-mail alps-info@chiba-u.jp

教育・学修支援の専門性に必要な能力項目（第1版）

	学生・学修支援への関心	担当業務の遂行	大学職員としての共通性
理解する内容	<p>①学生・学修・教育支援の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学生支援の現状理解 	<p>② 担当業務の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定と問題解決 ・情報収集・整理・分析・発信 ・業務に関する知識 ・様々な経験とその活用 	<p>③大学についての知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解
対人関係	<p>④学生への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・留学生への対応 ・困難を抱えた学生への対応 	<p>⑤担当業務への取り組み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当業務の遂行 ・チームワーク 	<p>⑥人間関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的ネットワーク ・教員との連携・協働
基盤的スキル			<p>基盤的スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアアップ・スキルアップの取組 ・ICTスキル ・語学 ・説明できる力 ・メタ的な能力(社会人としてのコンピテンシー) ・物事を広くみる力 ・クリティカルシンキング ・文章作成能力

領域	項目 (各領域で含む要素を具体的に示したもの)	S (知識やスキルを発展させ、指導することができる)	A (知識やスキルを実践の場の問題解決に 応用できる)	B (身に付けた知識を説明できる)	C (知識として身に付けている)
①学生・学修・教育支援の内容	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容の把握 学生・学修・教育支援の内容の設計と実施 学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 学生・学生支援の現状理解 	<p>学生の支援ニーズを調査し、学習者のニーズにあわせた学修支援を開発し、効果的に実施することができる。さまざまな教育領域の教育上の最新の改善課題、論点、教育方法を把握し、個別の授業ニーズにあわせた教育支援に活用することができる。そして、学修支援・教育支援の結果を検証し、評価、改善することができる。</p>	<p>個々の学生に応じた支援内容・方法を選定し、必要な支援を設計、提案することができる。また、所属大学全体の教育課程の概要を理解した上で、学内外の先進的な取組事例を参考に、個別の授業に対して教育支援を具体的に提案することができる。</p>	<p>学修支援に必要な教育領域における最新の改善課題、論点、教育方法を説明することができる。また、学生の多様性を理解し、個々人の学習上の課題を踏まえた支援を説明することができる。</p>	<p>教育支援や学修支援の担当者に必要な法令遵守の意識、倫理観を身に付けている。また、学修支援に必要な教育課程の基本的枠組みと個々の授業が扱っている教育内容の概要を理解している。</p>
②担当業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> 課題の設定と問題解決 情報収集・整理・分析・発信 業務に関する知識 様々な経験とその活用 	<p>所属箇所における課題を発見し、改善することを目的に、課題設定、データ収集・分析、対応策の立案、実施を自立的に実現することができる。担当業務に関連する新たな取組を企画立案し、周囲の協力を得て、実行することができる。</p>	<p>学内外の先進的な取組事例を参考にし、自分の担当業務に応用することができる。また、自分の業務に関連する情報、データを収集し、整理、分析した上で、業務上の課題について解決策や改善策を提案することができる。</p>	<p>学内外の最新動向・情報を収集し、担当業務との関連性を説明することができる。また、自分の業務について予算的裏付けや会計上の位置づけを説明することができる。これまでの業務内外の経験を現在の担当業務に活かしており、その関連性を説明することができる。</p>	<p>大学における担当業務を行うために必要な知識を有している。また、学生や教育に関する情報の収集、整理、保管に関する法令や規則、倫理を理解している。</p>
③大学についての知識	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育・社会・教育に関する知識 所属大学についての理解 	<p>高等教育の現状について批判的に分析・検討し、所属大学における教育のあり方について具体的な改善案を策定し、実践の場で提案することができる。</p>	<p>高等教育を取り巻く社会・経済情勢や政策動向などから、所属大学の教育の現状について批判的に分析・検討し、組織上の構造的な問題を特定し、解決策や改善策を提示することができる。</p>	<p>大学で教育研究されている学問領域全体の体系性や内容、構造についての理解に基づき、所属大学の教育の特徴や個々の施策・規則の意義や課題について説明することができる。</p>	<p>国内外の大学に関する歴史や制度、法規、政策、取り巻く環境などについて基本的な理解を示すとともに、その中で所属大学の理念や特色、位置づけを把握している。また、カリキュラム論や発達理論などの教育や学生に関わる一般的な知識を有している。</p>
④学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> 学生対応への基本的姿勢・態度 留学生への対応 困難を抱えた学生への対応 	<p>学生の対応に関わる学内外の利用可能な資源の現状について批判的に分析・検討を行い、より効果的な支援の体制・あり方を、実現可能性を含めて、企画・設計し、構築するなど、学生の対応について指導的役割を果たすことができる。</p>	<p>学生への対応に関して、国内外の様々な事例を参照・理解し、それらの事例を批判的に検討したうえで、個別の事例に適用して実践に利用することができる。問題解決のために、学内外の利用可能な資源を活用し、効果的に対応することができる。</p>	<p>アドバイジングやカウンセリング、コーチングに関する技術を応用し、留学生を含む多様な学生への効果的なコミュニケーションのあり方について説明することができる。また、所属大学における保護者との関わり方や医療機関等の学内外の利用可能な資源の現状について説明することができる。</p>	<p>現代の学生・若者をめぐる状況や課題を理解し、キャリアやハラスメントなど、学生が入学してから卒業するまでどのような困難や課題を抱えるかについて理解している。また、問題行動を起した学生への対応について把握している。発達障害やメンタルヘルスなどに関する困難を抱えた学生の対応や支援についての知識を有している。</p>
⑤担当業務への取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> 担当業務の遂行 チームワーク 	<p>学内外の組織横断的な、あるいは困難な担当業務について先を見通した計画を立て、主導的に実行することができる。さらに、協働して業務を行うことの強みを活かして、高い成果を生み出すことができる。</p>	<p>担当業務を遂行するに当たり、率先して取り組むとともに、協働する他者の強みや弱みなどの特性を理解し、業務への自他のモチベーションを高めるなど、チームを活性化し、業務の効率と効果を高めることができる。</p>	<p>担当業務の意義や大学全体から見た役割を理解しており、職務に対して意欲的に取り組むことができる。チームで業務を進めるにあたり、自分の考えを伝えつつ、他者との合意形成を図り、協調的に業務を推進することができる。</p>	<p>所属大学の方針や業務の流れを把握し、正確に業務を行うため、自分で調べたり、必要に応じて関係者に確認することの重要性を理解している。また業務で困難が生じた場合は、周りに助けを求められることができるなど、チームワークを意識して業務を遂行することができる。</p>
⑥人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 人的ネットワーク 教員との連携・協働 	<p>勉強会・シンポジウム等の参加や情報交換の機会を利用し、学内外に幅広い人的ネットワークを形成している。また、学内外の人的ネットワークを活用し、様々な情報を収集し、所属大学の業務改善・開発に生かすことができる。</p>	<p>学内に人的ネットワークを形成し、必要に応じて、関係する教員や他箇所の職員等と連携を図り、調整しながら職務をやり遂げることができる。また、どのような関係者と協働すれば効果的に業務が遂行できるかを把握している。</p>	<p>大学教員の仕事や役割についての理解に基づき、業務で関わる教員の特性を把握し、他箇所の職員等との連携を含めて、協働する体制を構築するための働き掛けを行うことができる。</p>	<p>担当業務以外の業務や学内の取り組みについて関心を持ち、所属大学内の他箇所の職員と関わる機会に積極的に参加するなど、開かれた態度や行動を示す。</p>

教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック 行動特性まとめ（領域・項目・行動特性）
（第1版）

この表は「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」を具体的に示すために、各領域が含む要素として「項目」を示しており、各項目が含む要素として「行動特性」を示したものである。

領域	項目	整理番号	行動特性	
①学生・学修・教育支援の内容	・教育内容の把握	1	・教育・学習の内容を把握している。	
		2	・様々な教育方法に関心がある。	
		3	・各専門分野の教育の動向に関心がある。	
		4	・カリキュラムマネジメントについて関心がある。	
		5	・学修に必要なアカデミックスキルについて理解している。	
		6	・学生が参加できる学内外の学習機会を把握している。	
	・学生・学修・教育支援の設計と実施	7	・学内の教育環境・設備を把握している。	
		8	・ひとりひとりの学生が大学で学ぶ目的を自覚するのを助け、それぞれの学びの目的に合った専攻分野の選択や科目の選択を支援する。	
		9	・学生・学修・教育支援の方法を選定する。	
		10	・学生を観察して、マーケティングできる。	
		11	・学生・学修・教育支援の内容を選別し、選定する。	
		12	・学生の諸活動を調整し、全体としてまとめる。	
		13	・効果的な教材の利用、開発に関心がある。	
		14	・教職員の学生支援に対する理解を促進する。	
	・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善	15	・学生・学修・教育支援の活動・プログラムの満足度などを測定する。	
		16	・学生・学修・教育支援の活動・プログラムを評価し、検証する。	
		17	・学生・学修・教育支援の活動・プログラムを改善につなげる。	
		・学生・学生支援の現状理解	18	・学生や学生支援の現状を把握している。
	19		・学生の特徴・性格に関する知識をもっている。	
	20		・現代の学生の状況を理解している。	
	21		・学生の現代的な行動を知っている。	
	22		・学生理解のための基礎的事項を学んでいる。	
	23		・学生の特徴と大学の学生に対する影響を知っている。	
	24		・現代の学生・若年者をめぐる課題や問題状況に関心がある。	
	25		・留学生への支援のあり方に関心がある。	
	26		・性、人種、国籍等の多様性を理解している。	
	27		・学生の学習や発達についての専門的な知識に関心がある。	
	28		・学生の支援ニーズを調査し、把握する。	
②担当業務の内容	・課題の設定と問題解決		29	・課題を理解し設定する。
			30	・課題を見つけて、解決方法を見出す。
			31	・取組の見通しを的確に示す。
		32	・新しい企画・提案をする。	
		33	・課題とこれからの方向性をはっきりさせる。	

	・情報収集・整理・分析・発信	34	・戦略プランニングの手法を持っている。	
		35	・学生や教育に関する情報の管理についての法令を理解している。	
		36	・データや統計を使用した実態の把握を意識している。	
		37	・資料収集や調査等の方法を理解している。	
		38	・関連機関等から情報を収集する。	
		39	・文献や資料を収集し、分析する。	
		40	・所属大学の他箇所や他機関の事例を参照する。	
		41	・先進的な取り組み事例を把握する。	
		42	・同僚の考えや想い、アイデアに耳を傾ける。	
		43	・情報を整理する。	
		44	・伝わりやすい情報に加工する。	
		45	・客観的データを提示する。	
		46	・効果的に情報を発信する。	
		47	・情報探索の結果をまとめ、効果的に伝える。	
		48	・業務をデータで残し、整理し、引き継ぐ。	
		・業務に関する知識	49	・業務に必要な知識を持つ。
			50	・業務についての専門知識を持つ。
			51	・大学の予算・会計について理解する。
・様々な経験とその活用	52	・様々な業務経験がある。		
	53	・教育の経験がある。		
	54	・留学経験がある。		
	55	・研究の経験がある。		
③大学についての知識	・高等教育・社会・教育に関する知識	56	・高等教育の制度や歴史を理解している。	
		57	・大学という組織自体の特性を理解している。	
		58	・大学やそれを取り巻く環境に関する知識を持っている。	
		59	・大学教育関係の法令や近年の施策の流れを理解している。	
		60	・文部科学省や中央教育審議会等の政策文書を読んでいる。	
		61	・学校教育法や大学設置基準等の関連法規を理解している。	
		62	・単位制度について説明できる。	
		63	・高等教育の諸制度の内容とそれらへの対応方法を理解している。	
		64	・最新の就職活動事情や企業に関する知識を持っている。	
		65	・いじめ、ハラスメントに関する理解と対応を知っている。	
		66	・カリキュラムの基礎知識を持っている。	
		67	・学生の発達理論を知っている。	
		68	・教育学の知識を持っている。	
		69	・教育工学の知識を持っている。	
		70	・心理学および社会学の知識を持っている。	
		71	・専攻領域やそのカリキュラムを熟知している。	
		72	・インストラクショナル・デザインの知識・スキルを持っている。	
		・所属大学についての理解	73	・所属大学でどのような内容の教育が提供されているかを知っている。
74	・自身が所属する大学のミッションを共感をもって受け容れている。			

		75	・学内規程を理解している。	
		76	・所属大学の状況を理解している。	
		77	・学生支援の担当組織を理解している。	
		78	・履修規則を理解している。	
		79	・教務知識や学内リソースを幅広く把握している。	
		80	・所属大学の全般のルールを把握している。	
		81	・所属大学の全学的動向を把握している。	
		82	・所属大学の学生の生活状況について知っている。	
		83	・所属大学の教育に関する3つのポリシーを理解している。	
		84	・所属大学の理念に基づいた対応をする。	
		85	・学生が課題とする内容にあわせて担当箇所を案内する。	
		86	・所属大学での複数の業務領域の知見を持っている。	
④学生への対応	・学生対応への基本的姿勢・態度	87	・学生に、信頼されるように接する。	
		88	・価値判断を押し付けない態度をとる。	
		89	・人の成長を助けたいと思っている。	
		90	・人と話すことが好きである。	
		91	・平等な態度で接する。	
		92	・学生のニーズを把握する。	
		93	・学生の立場に立つ。	
		94	・学生の話に傾聴の姿勢で聴く。	
		95	・人の顔や名前を覚えている。	
		96	・話しかけやすい雰囲気意識している。	
		97	・他者の話を丁寧に聞く。	
		98	・相手の立場で考えることを意識している。	
		99	・相手の特徴や個性に合わせた対応をする。	
		100	・学生が晒されるリスクへの対応を知っている。	
		101	・個々の学生の家庭環境や家族関係が多様であることを理解しようとしている。	
		102	・「学生のためになること」は何でもやろうとする情熱をもつ。	
		103	・個々の学生に適切な時期に、適切に対応する。	
		104	・多様な学生層への効果的なコミュニケーションができる。	
		105	・学生への指導力を持つ。	
		106	・アカデミック・アドバイジングに関する基礎知識を持っている。	
		107	・キャリア・アドバイジングに関する基礎知識を持っている。	
		108	・カウンセリングの知識を持っている。	
		・留学生への対応	109	・国際的感覚・異文化理解の知識を持っている。
			110	・留学生の生活に関する知識を持っている。
			111	・留学生出身国に関する知識を持っている。
			112	・日本語・日本文化に関する知識を持っている。
		・困難を抱えた学生への対応	113	・困った人を見たら進んで声を掛ける。
			114	・学生が起こすトラブルについての知識を持っている。
			115	・問題のある学生への対応方法を知っている。

		116	・学生のメンタルヘルスに関する知識に関心がある。
		117	・障害をもつ学生へ支援のあり方に関心がある。
⑤担当業務への取り組み方	・担当業務の遂行	118	・正確に仕事をする。根拠を持って対応する。
		119	・ルールや規則を遵守する。
		120	・分からないことがあれば他人に聞く。
		121	・問題を自分だけで解決しようとしめない。
		122	・関係者の声を誠実に受け止め、誠意をもって対応する。
		123	・教務は担当者の裁量が大きいことを理解する。
		124	・職員としての役割意識を持っている。
		125	・自分の業務の社会に対する意味や役割を意識している。
		126	・職場の環境づくりを考える。
	127	・仕事に優先順位を付ける。	
	128	・業務の意義や進み方を自ら判断できるための学習をする。	
	129	・自分の業務の進め方を絶えず見直している。	
	・チームワーク	130	・同僚と協調して職務を遂行する。
		131	・チームワークが得意である。
		132	・問題を自分だけで解決しようとしめない。
		133	・リーダーシップを発揮する。
		134	・マネジメントの基礎的能力を身につけている。
		135	・他者の能力向上、能力開発を支援することに関心がある。
	⑥人間関係の構築	・人的ネットワーク	136
137			・他箇所と連携する。
138			・関連機関等と連携・調整する。
139			・学生や保護者、教員から信頼される人間関係を構築する。
140			・どの箇所に相談すれば仕事が進むかを判断する組織内人脈を持っている
141			・学内の他箇所の仕事に関心を持っている。
142			・他箇所との交流を積極的に行っている。
143			・周りの仕事を把握する。
144			・設置形態が異なる他大学の視点からの意見を聴く。
145			・学外ネットワークの重要性を知っている。
146			・他大学の人とのつながりを持っている。
147			・他大学の教職員と交流する。
148			・自分から進んで研修に参加する。
・教員との連携・協働		149	・教員の特性を知っている。
		150	・教員との協働を意識している。
		151	・教員とのコミュニケーションを図る。
		152	・教員との信頼関係を構築する。
		153	・教員とともに企画を遂行する。
		154	・教員がどのように教育しているかを知っている。
⑦基盤的スキル	・キャリアアップ・スキルアップの取組	155	・キャリアアップ／スキルアップの取り組みを行う。
	・ICTスキル	156	・コンピュータの活用能力を持っている。

	157	・ICTリテラシーを持っている。
	158	・事務システムの運用能力を持っている。
	159	・ICT等の新しいテクノロジーに対応する。
・物事を広くみる力	160	・社会常識に照らして検討する。
	161	・幅広い視野から職務を見通すことができる。
	162	・先見性・先を見る力を持っている。
・語学	163	・英語で業務を進める。
	164	・英語等の外国語の学習を行っている。
	165	・英語以外の外国語で業務を進める。
・クリティカルシンキング	166	・疑問を持つことを意識している。
	167	・批判的なものの見方を持っている。
	168	・論理的思考を意識している。
	169	・批判的かつ創造的思考を持っている。
	170	・アイデアを出す能力を持っている。
・説明できる力	171	・意見を的確に判りやすく伝えるプレゼンテーション能力を持っている。
	172	・取組の目的やねらいを表現する力を持っている。
	173	・人前で話す際の能力を持っている。
・文章作成能力	174	・文章作成力を持っている。
	175	・論文作成力を持っている。
・メタ的な能力(社会人としてのコンピテンシー)	176	・自分の意見を持っている。
	177	・健康・体力を維持している。
	178	・冷静な判断力を持っている。
	179	・クレームに対応することができる。
	180	・信頼関係を構築することができる。